

心のハーモニー 初の大舞台

視覚障害者とボランティアらで構成する横浜市のコーラスクラブが27日、1500人収容の大ステージに立つ。神奈川県鎌倉市を拠点に活動する合唱団が、鎌倉芸術館で開く定期演奏会の一ステージを提供してくれた。初めて巡ってきたひのき舞台。こうしたクラブが大ホールで演奏する機会は少なく、練習にも熱が入る。

メンバーは、視覚障害者の自立支援施設「神奈川県ライトセンター」を利

横浜の視覚障害者・ボランティア合唱団

用する15人とボランティアら17人。78年の創立以来、月1回の練習を楽しんできた。

視覚障害者は楽譜が読めないため、30年間指導する篠崎幹子さん(53)が吹き込む録音テープが頼り。練習では篠崎さんが鳴らす指の音に耳を澄まし、タイミングを体全体でつかむ。「上から置く感じでね」。篠崎さんが左手を右手の上ではずませて音のニュアンスを説明すると、すかさずボランティア

衣装新調 練習に熱

が視覚障害者の手を取って教える。

今回の企画は約1年半前に「円混声合唱団」が持ちかけた。指揮者で神奈川県合唱連盟理事長の田中登志生さんに師事する人たちによる合唱団で、03年の創立以来、演奏会に老人ホームの高齢者を招待するなど社会貢献にも積極的だ。

ステージが決まってからは練習を週1回に増やし、衣装も新調。歌うのはテンポの良い「三つの汽車のうた」など4曲で、モーツァルトの「アベ・ベルム・コルプス」を両団で一緒に歌う。

稲橋信子部長(65)は「視覚障害者でも同じことができるというところを見せたい」と意気込む。問い合わせは円合唱団の高橋さん(04666・23・75922)。

【三木陽介】



27日の演奏会に向けて練習に励む神奈川県ライトセンターのコーラスクラブ